



全日畜だより

[こちら編集部] (03)-3583-8034

東京都港区麻布台2-2-1麻布台ビル

発行日 2021年1月28日

発行NO 2021 - 41号

全日畜セミナーのご案内 (WEB型セミナー) (テーマ : 畜産経営における安定した労働力確保)

○ 昨年に続いて2度目の開催 (JRA事業 : 畜産経営雇用促進調査事業)

全日畜は、少子高齢化等により雇用の確保が困難さを増していることを踏まえ、雇用問題の軽減に貢献することを目的に、昨年度からJRA事業「畜産経営雇用促進調査事業」を実施しております。

令和2年度は、昨年度に続いて第2回となる「全日畜セミナー」を開催します。特に最終年度を迎えた今年度は、2年間の事業の集大成として「アンケート調査結果から雇用問題を分析」、「作成中の雇用指針の紹介」の2題の講演をお願いしました。

セミナーの実施に当たっては、全国的なコロナウイルス感染拡大が続いており、昨年度のような集合型のセミナー開催は難しいことから、講演動画を全日畜のホームページに掲載して、インターネットを介してご参加いただく(聴講いただく)形式としました。

セミナーの講演動画は、1月28日(木)から3月末日まで全日畜ホームページのイベントコーナーに次頁のように掲載してあります。講演動画をクリックしてどうぞご覧ください。

「全日畜セミナー」のご案内



テーマ

「畜産経営における安定した労働力確保」

[ご挨拶]

畜種横断の畜産経営者の団体である「全日畜」は、昨年度から、生産現場での安定した労働力確保に資するため畜産経営雇用促進調査事業(JRA事業)を実施しています。この事業の一環として開催する全日畜セミナーは、全国の畜産経営者のみなさんとの雇用対策についての意見交換の場です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。



「全日畜セミナー」の概要

- 開催日 令和3年1月28日(金)から [映像掲載の始期]
- 開催方法等 今年度のセミナーは、コロナウイルスの感染拡大が収まらないため、集合型のセミナーに代えて、インターネットを介したWEB型セミナーとして開催いたします。以下に紹介しました2題のテーマについて、お二人の講師にご講演をいただき、この映像をホームページに掲載いたします。聴講後の感想やご意見等もメールでお寄せいただけますようお願いいたします。

[講師のご紹介]



講師 吉田 真悟 氏

演題 アンケートからみる畜産業界の労働力不足問題

講師 農学博士 吉田 真悟 氏
農林水産省 農林水産政策研究所 研究員

概要 本報告では政府統計、日本農業法人協会調査及び畜産経営体調査に基づいて、畜産業界の労働力不足問題を概観し、労働力不足と関連の強い人的資源管理施策を特定する。

[講師のご紹介]



講師 松原 英治 氏

演題 畜産経営者のための雇用対策指針案

講師 環境学博士 松原 英治 氏
一般社団法人 全日本畜産経営者協会 専門員

概要 畜産経営では、雇用確保の困難さが増えています。過去2年間のワークショップでの取り組み事例やアンケート調査結果から、雇用対策指針案をまとめたので報告します。

(全日畜セミナーのPR版から)

(文中での団体の略称標記について)

- ・一般社団法人 全日本畜産経営者協会 (全日畜)
- ・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金 (全日基)
- ・協同組合 日本飼料工業会 (工業会)
- ・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会 (〇〇県基金協会)

全日畜セミナーでの2題の講演について紹介します。

○ 全日畜セミナーの講演動画の概要

◎吉田講師は、スライド37枚で約40分のご講演。農業における労働力不足の実情を解説して、畜産法人における労働力不足を分析。

◎松原講師は、スライド28枚で約30分のご講演。全国で開催したワークショップ等での意見交換から作成した質疑応答集の紹介等。

○ 吉田真悟 氏の講演概要のご紹介

農林水産政策研究所で農業法人の雇用問題等がご専門の講師は、全日畜が昨年度全国の畜産経営者（5畜種）に対して実施した雇用実態に係るアンケート調査について、回収した409件の調査結果を基に分析。従業員に積極的に投資する姿勢や働き方改革に準ずる導入などが経営戦略と報告。

○ 松原英治 氏の講演概要のご紹介

講師は、①労働者の負担を軽減しながらスマート畜産技術などにより省力化、効率化が必要、②統率型よりサーバント型リーダーシップが効果的、③楽しい職場、しあわせな職場の実践を、職員とのコミュニケーションが円滑化、④個性をみがき、多能工化を進めそれを支援することが有効と報告。

全日畜セミナー講演動画

令和2年度全日畜セミナー「畜産経営における安定した労働力確保」

ご案内

私たち、畜種横断の畜産生産者の団体「全日畜」は、令和2年度の日本中央競馬会畜産振興事業として「畜産経営雇用促進調査事業」を実施しております。昨年度に続いてこの事業の一環で「全日畜セミナー（畜産経営における安定した労働力確保）」を企画しましたが、コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年度は集会型セミナーに代えて、事業に係る2題のご講演を、全日畜ホームページに掲載してインターネットを介してご参加いただくことにしました。多くの方にご覧いただき、喫緊の課題である、畜産経営における安定した労働力確保の一助となれば幸いです。

令和3年1月28日
一般社団法人 全日本畜産経営者協会（全日畜）

講演動画



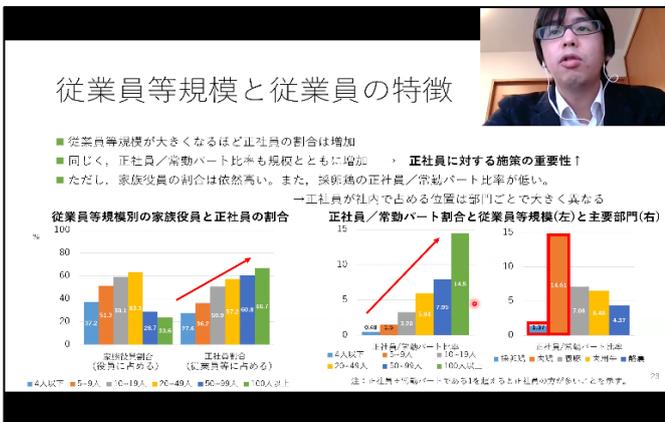
「アンケートからみる畜産業界の労働力不足問題」
農林水産省農林水産政策研究所
吉田真悟 研究員
[講演資料はこちら \(PDF\)](#)



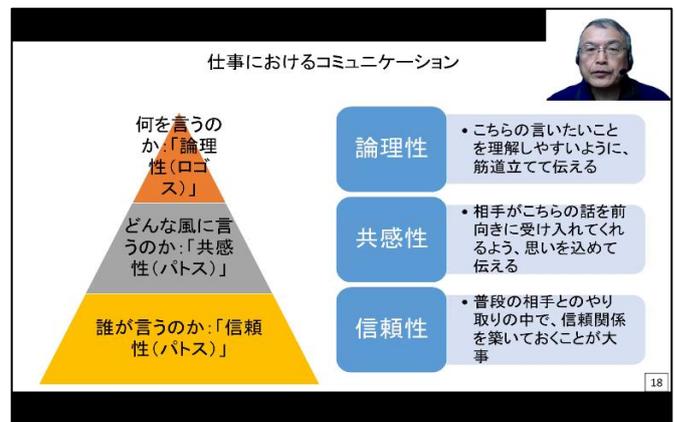
「畜産経営者のための雇用対策指針案」
一般社団法人全日本畜産経営者協会
松原英治 専門員
[講演資料はこちら \(PDF\)](#)

お願い：今後の参考にしたい、聴講後のご感想やご意見をメールでお寄せいただけますようお願いいたします。（メールアドレス：info@alpa.or.jp）

（全日畜ホームページへの掲載の様子）



（講師 吉田真悟 氏の講演の様子から）



（講師 松原英治 氏の講演の様子から）

（文中での団体の略称表記について）

- ・一般社団法人 全日本畜産経営者協会（全日畜）
- ・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金（全日基）
- ・協同組合 日本飼料工業会（工業会）
- ・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会（〇〇県基金協会）

農林水産省は「鳥インフルエンザ防疫の生産者向けチラシ（下図）」を作成して生産現場での防疫の徹底を呼び掛けています。活用下さい。

今シーズン（2020-21）は、**多量に鳥インフルエンザウイルスがあちこちに存在**しています！！

池、川、道路にも…
野山、森、公園にも…

MAFF 農林水産省

今シーズンは世界的にも発生が相次ぐ非常事態。カモや白鳥等の渡り鳥がウイルスを持って大陸から飛来。糞便等によって野山、池、道路等にウイルスが排出。

鳥や小動物を捕食するハヤブサやフクロウ等の猛禽類も感染死

STOP!! 手指消毒
STOP!! 車両消毒
衣類・靴の交換
防鳥ネット
野生動物対策

対策は…消毒や防鳥ネットの管理など全ての従業員による飼養衛生管理の**基本の徹底!!**

「ウイルスを農場内に入れさせない」「ネズミやネコにも油断しない」
農場を守れるのは…**あなた 農場主だけ…**

地域一帯となった消毒も有効です。防鳥ネットや消毒機器等の整備など、支援も用意していますので、ご相談ください。

MAFF 農林水産省

今シーズンのウイルスの特徴について

今シーズンは、農場周辺のあちこちに、多量の鳥インフルエンザウイルスが存在。でも…

農場・人・物・車両の消毒等により、ウイルス量を一定量以下まで減らせば、**感染を防ぐ**ことが可能です。

※農研機構の試験において、 10^5 EID50では鶏が死亡し、 10^4 EID50では死亡しない結果。（EID50：発育鶏卵の半分を感染させるウイルス濃度）

徹底的な消毒で、この渡り鳥の飛来シーズンを乗り切れるよう、関係者が連携し、**頑張りましょう！！**

鳥インフルエンザの症状
特に、以下の症状には要注意。

元気消失
肉冠のチアノーゼ
顔面の浮腫性腫脹
突然死

写真出典：農研機構動物衛生研究部門

今シーズンのウイルスは、感染してから死亡するまでの期間が長い傾向があるため、**鶏の症状に注意を払う**必要があります。

必ずしも全ての症状がみられるわけではないことに注意！！

「いずれかの症状に当てはまる」「何か異状がみられる」「死亡羽数が増えている」

そんなときは、最寄りの家畜保健衛生所等に要相談！！

**早期発見
早期通報
が重要です!!**

（文中での団体の略称標記について）

- ・一般社団法人 全日本畜産経営者協会（全日畜）
- ・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金（全日基）
- ・協同組合 日本飼料工業会（工業会）
- ・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会（〇〇県基金協会）